資料２

長岡市の将来像の設定へ向けた検討

日本の都市を取り巻く時代潮流

① 人口減少と少子化問題

② 高齢化のさらなる進展

③ 国内外での都市間競争

④ 巨大災害の恐れ、老朽化するインフラ（道路、施設など）

⑤ 食料・水・エネルギーなどの地球環境問題

⑥ 情報技術など新しい技術への対応

限られた財政基盤の中で、国内外との都市間競争下を、生き残っていく必要がある。

人口減少社会においても定住人口の維持や働き場の確保などを通して、持続可能な都市を構築することが必要である。

時代潮流下において

現行計画の成果

＜構想実現のための共通の視点＞
市民力と地域力を活かした協働体制が整うと同時に、アオーレ長岡を拠点に活動も活発化。健全財政を維持。

＜人材と文化をはぐくむまち＞
やる気や学ぶ意欲をはぐくむ教育、学校と地域の連携、まちなかキャンパス長岡による生涯学習の推進。

＜健やかでいきいきと暮らせるまち＞
地域福祉が着実に進展。シルバーささえ隊、子育ての駅、カフェスタイルの健康拠点等全国に先駆けた取組みを実施。

＜活力と魅力、安全安心で住みよいまち＞
創造的復興等日本一災害に強いまちに向けた取組み。中心市街地の再生。フェニックス大橋・左岸バイパスの開通。

＜環境にやさしく豊かな自然と調和するまち＞
生ごみバイオマスガス発電センターを整備、メガソーラー発電所を誘致。トキの分散飼育を寺泊で開始。

＜地域経済が元気で働きやすいまち＞
農林水産業、商店街の支援。長岡ものづくり現場改善インストラクター養成スクール等の人材育成や企業誘致の促進。

「前より前へ！長岡人が育ち　地域が輝く」のキャッチフレーズのもと、市民力・地域力を活かしたまちづくりを進め、創造的復興を果たした。

全国に誇れる特徴あるまちづくりが大きく前進。

市町村合併による新しい「長岡市」が定着。

長岡市の現況整理

＜人口減少時代に突入＞
2000年から人口が減少し、特に若者の転出が大幅超過。2040年には25％以上減少と推計。

＜超高齢社会の進展＞
高齢者センター、老人福祉センターの利用増加。介護保険サービスの利用件数は増加傾向に拍車がかかっている。

＜市民活動の活発化＞
NPO法人数や、市民協働センターでの相談件数が増加。コミュニティセンター利用者数も増加している。

＜地域経済の縮小＞
市内総生産、事業所数、従業者数ともには減少傾向。製造業を中心に近年低成長。

＜注目される観光＞
長岡まつり花火大会、米百俵まつり、寺泊港まつりの開催等による観光客増。

人口減少、特に若者の転出超過、人材不足の懸念、産業の低成長化の克服、超高齢社会への対応が課題。

農・商・ものづくりの集積や若者の地元指向、交流人口の拡大などを活用すべき。

現状の課題とこれまでの成果を活かして

第2回策定委員会での意見交換　　第3回策定委員会以降、整理したものを提示

長岡市の将来像の議論の視点

長岡らしさで世界に勝負する！

『国土のグランドデザイン2050』より

多様性を磨き上げ、深い固有性を獲得すれば、それは世界的な普遍性を持ち、日本の新しい成長エンジンとなる。

長岡市へ人の流れを創出する！

『まち・ひと・しごと創生会議資料』より

- 移住のきっかけは、「結婚・子育て」、「出身地・家族知人がいる」、「転職・退職」。
- 移住の際の不安や重視する点は、「生活コスト」、「日常交通や公共交通の利便性が低い」、「仕事」、「医療福祉施設の充実」。

『総務省調査』より

- 都市・地方の移住交流者は、①仕事やりがい探求派、②生活革新チャレンジ派、③悠々自適暮らし満喫派に分類される。

高齢化、人手不足を克服する！

『日本再興会議』より

女性や高齢者が働きやすく、また、意欲と能力のある若者が将来に希望が持てるような環境を作る。

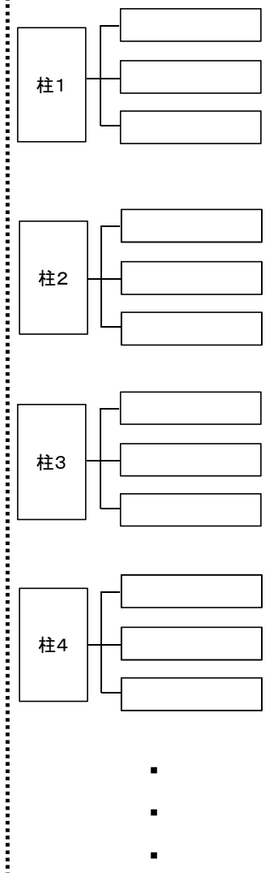
目指すべき将来像

長岡市の将来像

長岡市が目指すべき将来像を設定します。

将来像の実現のために

実現に向けた柱

長岡市の将来像の実現に向けた計画の柱を設定します。

＜柱イメージ＞